

# 花湊浜

(はなぶちはま)

この地区には鼻節神社が鎮座しており、海に突き出した地形が、はなっばしとか、鼻淵と呼ばれる例は多いので、そこから名付けられたという説や、この大神の鼻に節があるからという説があります。花淵という名はこの鼻節に由来し、「はなふし」と呼んでいたのが「はなぶち」となまり、和銅6年(713)に元明天皇が、郡村の名称は雅訓(美しい字句)を用いるよう命じたため、花淵の字があたりつけられたのではと推測されています。以来、神社は「鼻節」、地名は「花淵」と書き習わされていったと、一説には伝えられています。

## L 鼻節神社 (はなぶしじんじや)



地区の旧家に残されている「鼻節大明神御縁起」によると、今から2400年ほど前の第6代孝安天皇(前392-前291)の時代に、猿田彦命(さるたひこのみこと)を祭神として花湊浜尻坊ヶ崎(こうぼうがさき)に勧請し創建されたと伝えられています。この神社は、多賀城を陸奥国の役所としていた頃に使われていた、国府厨印(こくふくりやのいん)が明治のはじめ神社修復の際に発見されたところでした。

また平安時代に、全国の神社を調べた古い記録の延喜式内神名帳(えんぎしきないじんみょうちょう)にも名前があります。大社(たいしゃ)と小社(しょうしゃ)に分けられていますが、名神大社(みょうじんたいしゃ)に属する位の高い由緒ある神社です。清少納言の『枕草子』や、『朝野群載』(ちょうやぐんざい)にも記録があり、これらによって朝廷の尊信を受け、民間の信仰がいかに厚かったかを知ることができます。

## 大根明神 (おおねみょうじん)

鼻節神社の南東海上約7キロの沖合い海底の岩礁堆に「西の宮」「東の宮」と呼んだ二つの祠がありました。漁師たちが岩礁を「根」と呼ぶことから、大根明神の名がついたと思われます。

もともと鼻節神社は、大根岩礁と呼ばれる所にあったのが、貞観の大地震(869)の時、地盤が陥没し海中に沈んだために、花湊浜垂水山(たるみずやま)に移され、その後、現在の場所に移されました。そのため、大根明神は鼻節神社の奥の院であるともいわれています。



(左が西の宮 右が東の宮)

## 鼻節神社とあわび貝 民話5

昔、親船が荷物を満載して沖合いから花湊浜へ向って航行中、嵐にあい波にもまれながら大根様の上を通ったら、みしっと音がして船底に穴があき、海水が吹き出したので大騒ぎになりました。早速みんなで水を汲み出したが、だんだん水かさが増してきます。船頭が鼻節神社の方に向って両手を合わせ、「鼻節様、どうぞ助けて下さえん」と、一心に拜んだら、今まで勢いよく吹き出していた水が、びたりと止まったのでほっとしました。ようやく花湊浜に着いて船底の穴をのぞいたら、大きなアワビがしがみついて穴をふさいでいました。この事があってから村の人達は、大根様の付近からアワビを採って、一番大きいものを大根明神と鼻節神社に供え、海上の安全と大漁を祈るお祭り(旧暦6月1日 大根明神祭)が繰り返されています。



## H 七ヶ浜国際村 (しちがはまこくさいむら)

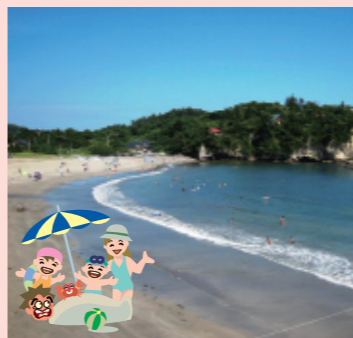
恵まれた自然環境と外国人避暑地を訪れる外国人との交流の歴史を背景として、町の文化創造の拠点となる施設としてオープンしました。

客席から海が見えるホールや、水に浮かぶ野外劇場アンフィシアター、北洋漁業の歴史を紹介したギャラリー「海物語」。

日本で唯一のアメリカ開拓史ミュージアム「プリマスハウス」、セミナー室や工房など国際村ならではの、遊び心がいっぱいです。

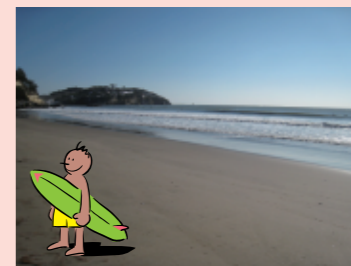


## J 表浜 (おもてはま)



高山外国人避暑地に隣接していて、夏には避暑にやってきた外国の人々でもにぎわう、異国情緒豊かな砂浜です。波は穏やかで、海水浴に適しており、家族連れに人気があります。

## I 小豆浜 (あずきはま)



小豆浜の名称は、その昔、小豆を積んだ船が漂着した事に由来します。小豆浜は、県内でも有数のサーフスポットで、ボードを抱えた若者達で1年中にぎわっています。また、道路からすぐ海が見えるので、絶好のロケーションが楽しめます。

## 高山外国人避暑地 (たかやまがいこくじんひしょち)

明治21年(1888)、当時第二高等学校の英語の先生だったハーレル博士がこの地を発見し、ついで東北学院長シュネーダー博士が、好適の避暑地として在仙外国人を勧誘し、翌22年(1889)に7棟の別荘を建築したのが始まりです。明治40年(1907)には当時の七ヶ浜村との間で999年の地上権が結ばれました。

高山外国人避暑地は二つの山の総称で、表浜海水浴場から海に向って右側が高山、左側が戸谷場地区となっています。

日本三大外国人避暑地  
海の高山 七ヶ浜町  
山の軽井沢 長野県  
湖の野尻湖 長野県

## K 花淵灯台 (はなぶちとうだい)

花湊浜保ヶ崎(ほがさき)に総工費1,578万円、2年をかけて建設し、昭和39年10月27日から点灯された無人灯台です。白色円形コンクリート造で、灯台の高さは20メートル、海面からの高さは62.5メートルになります。光は37.8キロメートルまで届き、暗礁の多い同海域の道しるべでした。



灯台の隣には祠(ほくら)があって、鼻節神社の旧社殿跡といい、その祭神猿田彦は、天孫降臨の際、先導をつとめられた故事から、開拓の神・陸上海上の道しるべの神として、全国各地にまつられております。その神殿跡地に、現代の海上の道しるべとして灯台が建設されたことは、自然が結ぶ奇しき因縁ともいえるべきでしょう。

## M 小浜港 (こばまこう) (小浜ヨットハーバー)

花湊浜にある小浜港は、県内有数の外洋ヨットの停泊地で、社団法人宮城外洋帆走協会により自主運営されています。松島湾の入口に位置しており、港を出ればすぐセーリングポイントという環境にあります。外国から立ち寄るヨットもあり、いつも大勢のセーラーでにぎわっています。

